

市内の不登校191人、34人増加

鶴岡市内の不登校児童生徒数は令和4年度、小学校で13人増の51人、中学校で21人増の140人であわせて191人でした。

千人あたりの人数では、全国や県と比較し、小学校でも中学校でも低い数値です。

県内の小・中学校で不登校の児童・生徒数は、昨年度2073人となり、過去最多を更新しました。

「無気力、不安」

県教育委員会のコメントでは、

「本県の小中学校の不登校児童生徒数は、令和3年度より増加し、全国と同様の傾向となつています。

不登校の要因としては「無気力、不安」が最も多くなつています。

学習面での遅れ

また、コロナ禍で感染への懸念や、本人、家族の体調不良等による出席停止等をきっかけにした欠席や、学校や保護者が積極的に登校を促せなかったことによる欠席が増えたことも要因と考えられます。」と述べています。

中学校で不登校が大きく増加するのは、原因は主に中学校での学校生活で、「不安などの情緒的混乱」や「無気力」などが上位を占めています。

高校受験などの進路選びで、学習面での遅れ・困難さが、不登校に結びつきやすくなると考えられています。

「10歳の壁」

小学校では、「9歳の壁」「小4、小5の峠」があります。

この年頃は、思春期前の「第二次性徴」で、心身両面の大きな揺らぎがあり、自己意識が芽生え、自尊心も高まります。

考える力も、具体から抽象へ、論理的思考をするようになり、未来と現在を結びつけて

ふるさと賛歌 13

鈴木重雄（八色木）

松嶺街道

藤島下町の元五十嵐印刷所前に、「向鶴岡 右清川、左松山」の追分石がある。

庄内藩主が、鶴岡から江戸に上洛（地方から都へのぼる）する際にここを通り、清川で最上川を遡上した主要道路である。左は松山藩主が庄内藩に参勤する松嶺街道である。

松山藩は、庄内藩3代藩主酒井忠勝が正保4年（1647）に没し、忠勝の3男忠恒に2万石が分与。忠恒の2万石は、左沢領1万2千石と飽海・田川郡の8千石からなり、寛文元年（1661）に、忠恒の藩主屋敷を松山

に設置することが認められ、本藩から家中、足軽339人を引き連れて初代藩主となった。松山の地名は当初、中山と言ひ、寛文4年（1664）に松山に改名し、中山藩から松山藩となった。左沢領1万2千石は松山藩の領地であり、松山藩の支配は明治4年（1871）の廃藩置県まで続いた。

松山藩主忠恒の参勤の際は、八色木の飯鉢忠左衛門宅で休憩した。「御休処」の立札が残っている。

飯鉢家の姓は、松山藩から下賜された、全国で一つしかない苗字である。



提供：鶴岡市教育委員会

下町の道標（鶴岡市史跡・建造年・慶応3年（1867））

時間軸で考えるなど、急成長します。

放っておくだけでは育ちにくいこの年頃に「社会性」を育てられるかが、カギになります。

※参考・渡辺弥生『子どもの「10歳の壁」とは何か？』光文社新書

※「不登校」の定義

30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者。（ただし、「病気」や「経済的理由」「新型コロナウイルス感染回避」による者を除く）

1等米比率20・5%、JA庄内たがわ

累計
55.4
15.3
13.7
21.7
19.2
19.4
15.0
49.8
20.5
97.8

JA庄内たがわ 令和5年産米主要品種別 支所別 一等米等級比率

支所	前年等級	はえぬき	ひとめぼれ	コシヒカリ	つや姫	雪若丸
温海	98.9	33.6	66.9	0.0	86.5	64.6
新余目	97.0	3.4	16.1	0.0	1.8	85.5
立川	99.7	12.8	60.9	0.0	1.1	67.9
藤島	98.2	12.5	42.6	0.0	12.2	89.6
三川	99.1	2.1	49.6	0.0	2.6	99.2
羽黒	98.0	5.9	12.3	0.0	0.9	67.0
櫛引	94.1	4.6	12.8	0.0	1.6	88.6
朝日	97.9	29.9	81.7	8.2	16.3	100.0
合計	97.8	8.9	38.7	0.6	6.3	86.2
参考 前年産	97.8	97.1	97.2	97.2	99.2	99.7

(検査基準日：令和5年11月18日現在)

JA庄内たがわ米穀課によると、令和5年産米の検査結果が最終段階に近づき、11月18日現在で、1等米比率が20・5%と、過去最低の見込みとなりました。

かつて経験したことのない数値です。

品種別では、雪若丸が最も高く86・2%、次いでひとめぼれが38・7%です。

最も低かったのは、新潟県同様にコシヒカリが0・6%、主力品種のはえぬきは8・9%で、つや姫はそれより低く6・3%でした。

支所別では、温海が55・4%で最も高く、次いで朝日49・8%、藤島21・7%。最も低かったのは立川の13・7%でした。

令和5年産米は、夏季の記録的な高温により、白米未熟粒が多発し、高温耐性の弱い品種が大きな影響を受けました。

に1923（大正12）年建立の酒田行在所跡記念塔（左写真）がある。

戦時中、金属製塔は撤収され、今は石の台座のみである。

また鶴岡公園内に土盛りした丘の上に行在所跡碑がある。鶴岡・酒田と当記念碑は全国でも特殊なものである。

さて当記念碑は、基壇の広さがほぼ4m四方、周りを石組で締め、同時に石柱を金具で繋ぎ、堂々たるものである。しかし、基壇の石

と石柱石は違つようで、後日の設置とも考えられる。専門家の判断が必要である。

石碑を入れた全体の高さは4・5mほどになろうか。いずれ全体的に正確な測量図をつくる必要がある。

このように堂々たる由縁は、篆額は行幸長官・太政官左大臣有栖川宮。撰文は副長官重野安釋、書は長茂など太政官官吏であること。さらには東田川郡に対し特別のものがあつたことも推測される。

れが4回もダ。

▲督促状は納期ごとに出るんだから、4回も差し押さえられるまでに何枚貰つたんだ、督促状を。税理士資格を持つている人が、国会での真面目な答弁がこれなんだから困る。こんな答弁しか出来ない者を選んだ人達は、泣いているかもヨ。

▲忙しくても納税を忘れないようにと、口座振替があるじゃないですか。税理士資格が無くつてもそんなことには気づくでしょ。誰に頭を下げたのか、彼はもう居なくなつたナ。

▲新たに一人、これはセクハラか。さらに統一教会から当選させてもらった議員も居た？ドミノは止まらないヨ。国会は補正予算どころではないでしょ。こども担当大臣は、一昨年の領収書を取り換えたとの報道。その事自体罪じゃないの？（石川）

東田川史跡物語

『駐鑾之碑』⑦

青山 崇

『駐鑾之碑』の規模と特色

行幸記念碑は、全国にほぼ300基と推定される。それとの比較で当記念碑の特色を簡潔にみてみる。

建立時期は、早いもので行幸数年後、遅いものは大正時代になる。当記念碑は行幸後4年

弱、1885（明治18）年4月、全国でももっとも早い時期に入る。

規模は、日頃見かけるもの、例えば三川町押切新田加藤家（右端写真）と違い、名称も『駐鑾之碑』と一般には馴染みのないものである。

また山銀酒田支店隣



三川町押切新田加藤家



山銀酒田支店隣に1923（大正12）年建立の酒田行在所跡記念塔